

高知憲法速報

No.243 2010. 11. 26

発行:高知憲法会議事務局 088-872-3406

編集人 事務局 徳弘嘉孝

「九条の会」四国ブロック交流会 11・21

「九条の会」の四国ブロックはじめての交流会が 11 月 21 日愛媛県四国中央市・川之江文化センターで開かれ、四国 4 県から 180 人が参加しました。高知県からは県下の「九条の会」から 28 人が参加しました。

「九条の会」事務局長の小森陽一東大教授が『「九条の会」の歩みとブロック交流会の意義』と題して講演、各県からの報告の後、四つの分散会で交流しました。

小森さんの講演要旨は次の通り。2004 年 6 月 10 日「九条の会」を結成しアピールを発表した。2003 年イラク戦争に日本が参加し、憲法を変えた方がよいの世論が 60%を超える中、加藤周一さんらの危機意識が 9 人のアピールにまとまり、会の結成となった。しかしマスコミはベタ記事で報道し、小田実さんは、このマスコミの現状では自分たちで訴えていくしかないと東京での講演会から始め、全国主要都市での講演会を開催した。その後各地で「9 条の会」が結成され始め、「九条をもつ憲法を選び直し行使していく主権者の運動」、「日本国憲法を守る一点で手をつなぎ」に応えた全国津々浦々での結成へとつながった。2005 年福岡の講演会は、福岡 9 条の会連絡会が主催するようになり、明らかにこの頃から潮目が変わった。平均年齢 76 歳という「9 条の会」は、戦争の記憶を次の世代に伝えたいと、これまで語らなかった人たちが語り始め、「われらとわれらの子孫のために」（憲法前文）立ち上がった。2005 年には全国で 3000 の「9 条の会」ができたが、9 月の「小泉郵政選挙」で与党は 3 分の 2 以上の議席を獲得、10 月 28 日には「自民党憲法草案」で自衛軍の保持と 9 条 2 項の改変を明記する。この日、2 + 2 協議で米軍基地再編と横須賀への米空母配備計画を発表、2006 年安倍内閣の誕生となっていく。2007 年になって、9 条の会は 6000 を超え、4 月読売新聞が口惜しそうに「3 年連続して改憲派が減少し、反対派が増えた」と報道する。2007 年改憲手続法の協議中、民主党は反対派に転じ、5 月 18 日「手続き法」は成立したが、7 月の参院選で国民は安倍内閣に「ノー」

を突き付け、安倍退陣へと動いていく。草の根の世論が政権中枢を動かし、1993 年細川内閣以来 15 年ぶりに憲法を変えない世論が勝利した経験だ。国民の世論は流動的で、北朝鮮の問題や尖閣問題などで揺れる。民主党の「新防衛懇」「防衛大綱の見直し」なども警戒が必要だ。しかし、私たちは 4 年間で明文改憲を押し返してきた。これから長丁場の運動をどう進めるか。9 条を生かす運動、すべての問題を 9 条から見ること。打ち上げ花火でなく日常的に地道に抵抗を続けること、交流会も開き、相互に関連したものを共有し発展させていくことが求められている。

参院憲法審査会、規定制定をめぐる動き急

国会の会期末を控え、参議員憲法審査会の規定制定を強行し、次期通常国会からの始動をめざす動きが強まっています。民主党と自民党の国対委員長が 10 月に早期制定を合意後、議運筆頭理事が協議してきましたが、「委員数を 45 とするなど合意、党内手続きを待つだけ」とも伝えられています。また 16 日には、新憲法制定議員同盟が審査会の始動をめざし会合を開きました。国民の多数が改憲を求めているにもかかわらず、比例定数の削減によって改憲反対勢力を国会から締め出すと同時に、改憲案審議の場を用意しようとする動きは絶対に軽視できないものです。

11 月 16 日、5・3 憲法集会実行委員会は国会内で集会を開催、65 人が参加しました。冒頭、市民連絡会の高田さんが挨拶、社民党の福島党首、共産党の赤嶺議員、穀田国対委員長らが国会報告をしました。各団体を代表して、女性の憲法年連絡会の榎本さんが「比例定数削減は新安保懇報告の具体化めざすもの」と批判し、憲法会議の長谷川事務局長が「比例定数削減、規定制定の背景には財界の改憲戦略がある」と指摘。国民救援会の望月副会長は「言論集会表現の自由抑圧は改憲策動と一体」と強調しました。

○「新世紀の安全保障体制を確立する若手議員の会」が名称変更、「若手」を削除(7 日読売)

○自民有志「定数削減と選挙制度改革を考える会」が初会合、安倍氏「中選挙区に戻せ」(16 日)

—11 月 19 日付「憲法しんぶん速報版」第 271 号より—

12 月 4 日の九条の会街頭宣伝署名は中止

12 月 4 日は「平和のつどい」と重なっており 9 条の会の街頭宣伝署名は中止、次回は 12 月 18 日(土)です